

全学FD2015

講義型授業におけるアクティブラーニング

～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル体験～

報 告 書

実施期日：2015年11月4日(水)

開催場所：共通教育棟（主会場D12）

富 山 大 学

教育・学生支援機構教育推進センター

目次

はじめに	1
当日プログラム	2
参加人数	3
全体の趣旨説明&公開授業の概説の当日スライド	4
公開した授業について	9
公開授業配付資料	10
シャトルカード実例	12
グループ分け	13
グループ討議ワークシート	14
全体討議の司会をして	21
参加者感想	22
参加者アンケート用紙	23
参加者アンケート集計、記述回答	24
結びに代えて	29

はじめに

本書は、2015年11月4日（水）午後開催された富山大学全学FD研修会『全学FD2015』の概要報告書です。

本学では、2012年以降、毎秋「全学FD研修会」を開催し、今回が4回目にあたります。それ以前にもこれに類する研修はありましたが、2010年に設立された大学教育支援センター（2015年4月に教育推進センターに改組）が主導する形で、各部局等のFDを補完する形で特徴を出し、全学の構成員に参加を促してきました。

折しも、大学としてFDの参加率の向上が目標値として掲げられている中、自力ではFDを開催しにくい小規模部局の教員や、たまたま他の用務との関係で自部局のFD研修に参加できない教員にとっては、新たな参加機会を提供することにもなります。全学FD研修会で各部局とは異なる特徴を打ち出していくことは、自部局のFDに参加した教員にとっても、更に新しい刺激と教育改善のヒントを得ることに繋がり、教育改善を促進しやすい環境づくりが実現できるものと考えています。

過去3回は、学外から御招きした講師の基調講演を受けて、グループ討議・全体討議へと進む形を取る討議型FDという点を主な特徴としていましたが、今年度は、公開授業を参観した後、その受講学生を交えたグループ討議を組み込むという独自の形を試行しました。参観した授業自体がアクティブラーニング型の授業であり、具体化に向けて試行錯誤が続くアクティブラーニングを今後どう展開するかという点でヒントになったように思います。また、受講学生にとっても、普段、あまり話すことのない他学部教員と率直な話し合いができる貴重な機会になったようです。このような、学生と教員が一体化したFDは、FDの実効性を高める上で極めて意義が大きいと思われれます。

本報告書に採録したグループワークシートやアンケートの自由記述を御覧になると、当日の熱気あふれる議論の様子を垣間見ていただけたと思いますので、当日御参加いただけなかった方、あるいは時間の都合で授業参観部分のみに参加された方にも少しでも雰囲気伝われば幸甚です。

最後になりましたが、橋本先生をはじめ、今回の企画の準備・運営に当たっていただいた全学FD・教育評価専門会議の委員各位及び学務課の職員各位、また積極的に御参加いただいた教職員や学生の皆様にも厚く御礼申し上げます。

富山大学 理事・副学長

教育・学生支援機構 教育推進センター長

神川 康子

講義型授業におけるアクティブラーニング ～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル体験～

全学FD2015

プログラム

11月4日(水) 13:30～16:40

五福キャンパス共通教育棟D12教室ほか

公開授業担当及び全体のコーディネーター 橋本教育推進センター副センター長

13:30～13:35 神川教育推進センター長挨拶
(共通教育棟D12)

13:35～13:55 全体の趣旨説明と公開授業の概説

13:55～14:00 移動

14:00～14:40 公開授業の参観 「現代社会論」(火曜5限)の短縮版を公開
(共通教育棟D21)

14:40～14:50 移動(小休憩を兼ねる)

14:50～15:30 グループ討議
(共通教育E棟)

15:30～15:40 移動(小休憩を兼ねる)

15:40～16:35 全体討議(司会 唐原教授)
(共通教育棟D12)

16:35～16:40 アンケート記入後、解散

参加人数

	異なり数 (非延べ)	右記 延べ数	公開授業	グループ 討議	全体討議
教員					
役員	1	1	1	0	0
人文学部	3	7	3	2	2
人間発達科学部	3	9	3	3	3
経済学部	7	13	7	3	3
理工学研究部(理学)	6	14	6	4	4
理工学研究部(工学)	6	13	6	4	3
医学薬学研究部(医学)	8	20	8	6	6
医学薬学研究部(薬学)	6	10	5	2	3
芸術文化学部	0	0	0	0	0
各センター	9	22	9	6	7
小計	49	109	48	30	31
職員					
人文学部	0	0	0	0	0
人間発達科学部	0	0	0	0	0
経済学部	1	1	1	0	0
理学部	1	1	1	0	0
工学部	0	0	0	0	0
医薬系事務部	0	0	0	0	0
芸術文化学部	0	0	0	0	0
学務部	6	6	6	0	0
その他(学外)	1	1	1	0	0
小計	9	9	9	0	0
学生					
人文学部	3	5	3	1	1
人間発達科学部	4	8	4	3	1
経済学部	0	0	0	0	0
理学部	10	27	10	9	8
工学部	14	17	14	2	1
医学部	0	0	0	0	0
薬学部	0	0	0	0	0
芸術文化学部	1	1	1	0	0
小計	32	58	32	15	11
合計	90	176	89	45	42

全学FD2015 (2015年11月4日)

全体の趣旨説明 & 公開授業の概説

教育・学生支援機構 教授
(教育推進センター 副センター長)

橋本 勝

本日は御参加有難うございます

私が本学のFD責任者として着任して5年目…。2年目から開始した「全学FD」も今回で4回目です。当初から多少の「橋本色」を打ち出してきましたが、今年には他に類例を見ない先駆的な形を試行します。

公開授業自体はFDの要素として多くの大学で取り入れられ、本学でも積極的に展開されつつある学部もあります。

しかし、その受講生を巻き込む形で直後に多くの学生・教職員が授業や教育についてまとまった討議をする形式は全国に約80大学ほどある学生参画型FD推進校でも前代未聞の新モデルです。

学生と討議する意義

教育は教員が、あるいは大学が一方的に提供するサービスではなく、「学びの主権者」たる学生の主体的参加があってこそ初めて意味があります。

この意味で、教育は教職員と学生が協働で創り出すものです。ティーチングからラーニングへ教育の重点が変化し、何を教えるかではなく学生が何を身に付けるかが重視されるようになった今日、その性格は一層強まっています。

学生参加型(参画型)FDは、決して学生の要望に迎合するものでもなければ、学生たちに新たな教育方法を押し付けるものでもありません。

むしろ、大学教育が質的転換を目指している現状の課題等について、知的共同体の構成員同士として、一緒に問題解決の方向性を探ろうと協力しあうものです。

今回のテーマは講義型授業におけるアクティブラーニングですが、実際にアクティブラーニング型の講義型授業を受け始めた学生たちの生の声が聞けますし、彼らに対し教員の考えをぶつけ、理解を図ることも狙っています。

橋本メソッド

私がそれまでの一方的な講義スタイルの授業方法を180度転換し教育学者が「橋本メソッド」と呼ぶ多人数討議型授業に切り替えてから15年程ですが、全回を公開している授業は、岡山大学、富山大学を通算してのべ300人以上に御覧頂いています。それにヒントを得て御自分の授業を大きく変えられた方もおられますし、中には御自分を起点にさらに普及を図っている方もおられます。

本来は、次の写真が示すように100人以上を主体的な学びに自然に誘うものですが、後期は受講生が少なく、今回御覧頂く授業は、普段大人数の授業をどうするかで困っていらっしゃる方は少し拍子抜けするかもしれません。

但し、経験上20名以上あれば少しのアレンジで応用可能ですし、そもそも今回の目的は学内に橋本メソッドを普及することではなく、御自分の授業あるいは自学部の授業をどう転換・改善するかを考えるヒントを与えることにあります。



讀賣新聞(2011. 7. 6朝刊)掲載、撮影は松本美奈記者

学生の目を輝かせ笑顔があふれる授業を数多く実現することに繋がれば幸いです。

さて、本日の予定は次の通りです。

まず、本日公開する授業についての概説的説明をもう少し続けます。

その後D21に移動して頂いて授業を御覧下さい。

授業後、グループ討議に参加される方はE棟に移動して頂くことになります。移動時に休憩をはさみます。

都合で授業参観だけの方は、その時点でアンケートにご記入頂いて終了となります。尚、学生の一部も授業だけで解散となります。

本日のスケジュール

14:00~14:40…公開授業(D21教室)

40分版に短縮しますが、学生にとってはデモンストラクションではなく授業の一環となっており、ほぼ普段通りの進行にします。

14:50~15:30…グループ討議(E棟各教室)

各グループに配置しているファシリテーターの指示にしたがって下さい。

15:40~16:35…全体討議(当会場)

グループ討議内容を共有し全体で討議をします。

本日の授業についての概説

スライドハンドアウトの後に付けている資料を御覧下さい。

これは初回授業で受講生に配る補充シラバス(授業の進め方)です。初めて「橋本メソッド」を体験する学生に対する解説になっており、チーム結成、実際の授業の進め方などを丁寧に説明していますから、今回のFDでも授業の概要理解の助けになると判断し、参考までに付けました。

今回は5回目の授業ですが初回のオリエンテーション、2回目のプロローグを経ていきますから授業の進め方資料の「エントリー一覧」で言うと上から3段目のスペシャル回にあたります。

本来の授業日時ではありませんから、学生が参加するかどうかは自由意思に任せましたが、事前確認では35人中25人が出席するようです。自発的参加を申し出た受講生以外の学生が数名参加するので授業規模は約30人です。臨時チームも含め14チームに分かれています。(このくらい的人数だとチームは2人が原則で、例外的に3名のチームがあります。)

さらに、発表チーム以外の学生が本日手にするレジュメも資料として付けています。発表チーム以外の学生には特に予習は課していません。但し、「授業の進め方」資料やシラバスで今回の授業テーマが「東日本大震災から4年半…私たちにできることは何か」であることは事前にわかっており、勝手に(自主的に)予習してくる学生がいても不思議はありません。今回がどんな「特別回」なのかは大半の学生は知りませんから、今回だけ特別に予習してくる学生はほとんどいないと思います。普段から「予習したければしてもよい」というスタンスで授業を展開しています。

尚、今回は40分の短縮授業のため、普段だと2チームが発表するところを1チームにしてありますが、元々エントリー予定チームは1チームしかなく、レジュメ選抜は行っていません。提出されたレジュメを機械的にB4の大きさに揃えて配布するだけです。（「授業の進め方」も実際はB4で統一しています。）尚、普段もそうですが、発表に向けて事前指導等は一切行っていません。従ってどういう発表になるか、その後どういう質疑応答が展開されるかは現時点では私も分かりません。

参考までに

今回の授業公開との関連の強い「市民公開シンポジウム」を11月7日（土）午後、また学びを更に深める学生企画の「アフターシンポ」を11月8日（日）午前に開催予定です。御関心があればそちらにも御参加を御検討下さい。

公開授業の受講生にも、言わば「発展学習」的に自発的参加を案内する予定です。

シャトルカード

併せて、シャトルカードの使用例も資料として付けました。このツールは最小限のアクティブラーニングを手軽に導入できるよう大学として用意し、普及を図っているものです。私が岡山大学から持ち込み、既に何名かの学内教員が使っています。

使い方は自由です。もし試しに使ってみようかという方は各学部事務部または学務部にお申し出下さい。無料です。

授業参観のポイント

今、あちこちでその必要性が叫ばれているアクティブラーニングで最も重要なのは学修者の主体性・自発性・積極性・能動性です。

「やらされ感」「負担感」が強いものは、たとえ授業外の学習量が多くても、一見、授業中の発言が活発に見えても本来のアクティブラーニングではないと私は考えています。

ですから、「橋本メソッド」では、原則として発言は自発的挙手によることを原則としています。

中には、要領を得ない、ただたどしい発言もありますが、彼らの意識として、「ここは発言力や主張力を高めるトレーニングの場」になっているかどうか重要です。

一方で、単なる能力開発の場だけでなく、現実の様々な社会問題をしっかり学ぶ場にもなっています。教員の一方的解説より、質疑応答を通じた理解力アップ効果も見逃せません。

アクティブラーニングの核心

もし、彼らと震災問題について議論したい気持ち湧いてきたら、あなたも参観者ではなく、参加者のようになっていくという事ですが、重要なのは、それは、議論に直接参加していない学生にとってもあてはまる心理である点です。

この点で、是非、参加者の表情や目の輝きをよく観察してみてください。

「発言したい」「調べてみたい」「学びたい」という気持ちをいかに自然に引き出し、高めるかがアクティブラーニングの核心ではないでしょうか。

では、そろそろ教室へ

解説はそのくらいにして、では実際の授業を見てください。

その後のグループ討議も経た上で、橋本メソッドなりアクティブラーニングなりについて、後で様々な議論を活発に行いましょう。

尚、討議に参加できない方などの質問にも応じますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

▼vhashi@ctg.u-toyama.ac.jp

ついでながら案内しますと

橋本の多人数討論型授業(「現代社会論」)は全ての回を公開しています。(後期は火曜5限)高岡キャンパスでも、20人規模ですが、木曜2限にほぼ同内容で「社会理論と現代」を開講しています。また、中人数で、より主体的学びを強める内容のもの(「新聞投稿に挑戦」木曜5限)もあります。これらも参観自由です。御関心があれば、ご自由にお越し下さい。

最初の説明は以上です。

速やかに公開会場のD21に移動して下さい。

【公開した授業について】

今回、参観授業として公開したのは、普段、五福キャンパスで本FD研修の企画責任者である橋本が火曜5限に開講している教養教育科目「現代社会論」の1回分を今回の研修用に特別に40分程度に圧縮したものです。受講生には、普段の曜日・時限と異なるものの、できるだけ出席するよう促しました。ただし、本来、この授業は前期に2コマ開講している各130名規模の大規模授業で、抽選漏れになった学生を主対象として補講的に後期に開講している関係上、元々受講生が前期分比べて極端に少なく(受講登録者34名)、仮に全員が出席しても参観授業としてはやや物足りない面があったため、普段から学生目線で大学教育の改善活動に取り組んでいる本学の学生参画型FD組織UD Matsのメンバーや、橋本のほかの授業の受講生等にも参加を呼び掛け、臨時に参加した学生が10名いました。なお、そのうち6名は前期又は昨年以前に「現代社会論」の受講経験がある学生でした。

次ページに示す資料は、初回授業で受講生に配る授業説明で、今回の参観者にも参考資料として配布しました。そこにも示してあるとおり、今回の公開授業はあくまで通常の授業の1回分を特別な形で構成し直したものです。授業時間を短縮したのは、通常とは違う曜日・時限であることに配慮した面もありますが、授業直後に組んだ討議部分にできるだけ受講生にも残ってほしいという狙いがありました。

岡山大学で2001年から本格的に開始され、今日では全国の多くの大学に広がりつつある学生参画型FDは、学修意欲の高い学生だけではなく一般的な学生の生の声もできるだけ教育改善に活かし、教職員が進める大学教育改善とマジョリティの学生の意識改革が照応することを目指したのですが、その意味で、今回の公開授業の受講生と教職員の直接討議はその足がかり的な意味合いを持っています。この授業が、いわゆるアクティブラーニング型とはいえ、比較的軽負担で参加しやすいことを意識した授業構成になっていることもあって、学修意欲という点では平均的な学生が受講していることも重要です。

当日扱った授業テーマは「東日本大震災から4年半…今、私達にできること」で、特に綿密な予習をしていなくても議論に参加しやすいものに設定してありました。学生グループの発表を受けてのグループ討議・全体討議が比較的活発に行われるのは、この授業ではごく普通の光景ですが、大勢の参観者に注視される中で多少の委縮はあったものの、ほぼ普段通りの授業になったかと思えます。

この授業では、毎回の授業の最後に感想や質問を自由に書くシャトルカードをツールとして採用しており、今回の公開授業でもいつもどおり書いてもらいました。(16ページには参考までに前期分のシャトルカードの実例を採録しています。)短縮版であるにもかかわらず、それも組み込んだのは、授業後の討議で、それも題材にしながら、授業内容自体より授業の在り方を様々な角度から考えてほしいという目的があったからです。

次年度以降は、学内のほかの教員に公開授業部分を担当してもらおうことも含め、更に発展した形を試行できれば幸いです。

(教育推進センター教授 橋本勝)

2015 現代社会論

担当：教育・学生支援機構 橋本 勝

連絡先：vhashi@ctg.u-toyama.ac.jp

この授業は教員からの一方的な解説をただ聞くだけの受け身の授業ではなく、受講生同士が活発に話し合う授業形態をとります。互いの「学び合い」を通じて知識の獲得・定着を図るものですが、高い学習意欲や特別な討議能力が必要というわけではなく、「橋本メソッド」と呼ばれるやり方で、誰もが持っている潜在能力を自然に引き出すことを目指します。比較的学習意欲の低い人も含め誰でも気軽に受講できます。最終的な成績は当然、個人別になりますが、授業は「団体戦」がメインになりますから新しい友人作りにも役立ちます。

富山での開講初年度となった2011年は、すべての回を直前に起こった東日本大震災に直接関係するテーマにしましたが、翌年からは、前任の岡山大学で10年ほど続けてきた現代日本に関する諸問題を広く扱う形に戻しました。年によっては、地球温暖化懐疑論、STAP細胞問題、歴史教科書問題、大学の学費の妥当性、振り込め詐欺などを扱うこともありましたが、今年はそれらは設定テーマとしては扱いません。(但し、最後の自由エントリーで自発的に扱うことは可能です。)橋本の「守備範囲内」で、年度によって扱うテーマが少しずつ違うのだと理解して下さい。

※前期は1クラスの受講者上限を約130名とするクラスを2クラス開講しましたが、後期は受講希望者がそう多くないと推測し、抽選なしで希望者全員を受け入れる予定です。万一、抽選になった場合も、理・工学部生で前期に抽選もれになった人は全員受け入れます。(上級生・オープンクラス生は元々抽選対象とはしません。)

※他の教員が同名で開講する授業とは内容・形式が全く違います。

※回によっては、取材や見学のため受講生以外の学生や教職員、一般市民等が参観することがあります。了承して下さい。

●チーム作り

まず、右の①～⑩及び㊟の11個のテーマのうち自分が最も関心がありそうなコーナーに移動して下さい。

次に、各コーナー内で簡単な自己紹介などをして、第2テーマが共通する「仲間」を探し、チーム結成を目指して下さい。1チームの構成は原則として2名または3名または4名 (受講希望者数による)。

尚、11/4のスペシャル回(㊟)は上手くいけば他の受講生の半分の負担で済むギャンブル回ですが、その代わりに、特別な役割を担ってもらいます。(別紙参照)

※相談時間内であれば他テーマに移動するのは自由です。

※1つのテーマで複数のチームができると、当面のライバルになります。(第2テーマで他にもライバルチームが出現しますが、それがどこかはすぐには分かりません。)

●チーム結成届作り

チームができたら、橋本からチーム結成届用紙を受け取り、内容を埋めて下さい。

※リーダー/サブリーダーは単なる連絡役です。連絡アドレスはPCメールでも携帯メールでもOKです。

※チーム名はどんなものでも構いません。せっかくだから表現力や個性を発揮して下さい。次回までは変更を認めますので今回は仮のものでもOKです。3回目以降はチーム名称は変更できません。

※第2テーマはメンバーでよく相談して決めて下さい。興味・関心の他、駆け引きも重要です。本日中に一度だけ変更するチャンスがあります。うまくまとまらなければスペシャル回に移動もできます。

☆もし、この授業が自分に合わないと思ったらチーム結成のドサクサに紛れて人知れず去って下さい。無理に残ると、後でチームメートに迷惑をかけることになります。

●エントリーテーマ(硬軟様々なテーマをランダムに配置してあります)

	発表日	エントリーテーマ	レジュメ案提出締切
①	10/20	“一億総活躍社会”の実現のカギを探る	10/15(木) 18:15
②	10/27	24時間営業のメリットとデメリットを考える	10/22(木) 18:15
⑤	11/4(水)	東日本大震災から4年半…私たちにできることは何か	10/29(木) 18:15
③	11/10	TPPで日本はどう変わるのか?	11/5(木) 18:15
④	11/17	“世界の日本化”現象をどうみるか	11/12(木) 18:15
⑤	11/24	リサイクル批判論をどう考えるか	11/20(金) 13:00
⑥	12/1	シリア難民問題をどう考える?	11/26(木) 18:15
⑦	12/8	日本語の乱れは変化なのか?	12/3(木) 18:15
⑧	12/15	2020年東京オリンピック・パラリンピックの盲点を探る	12/10(木) 18:15
⑨	12/22	尖閣・竹島・北方領土を考える	12/17(木) 18:15
⑩	1/5	北陸新幹線は富山に何をもたらしたか(もたらすか)	12/25(金) 18:15
★	1/19	現代社会に関する自由テーマ	1/14(木) 18:15

※1/26は原則として11/4の特別回の欠席者のみを対象にした補講の回としグループワークを行う予定ですが、11/4の出席者も出席する権利はあります。

※10/13はプロローグ、2/2は全員を対象にした最終小試験を含むエピローグの回となります。

●レジュメ案作りとエントリー

チームで選んだ2つのテーマについて発表の際に全員に配る発表概要(レジュメ)の案を作ってください。但し、授業の中では作成はもちろん相談する時間もほとんどありませんから、授業以外の時間を使って時間調整をして集まりメンバーで協力して作成することになります。レジュメの分量はA4(一般的なプリンターで印刷する時の標準サイズ)2枚またはB4(この用紙の大きさ)1枚に限定します。作成したレジュメ案は発表予定日の前日までの授業時に直接、橋本に手渡すか、上表の締切日時までに共通教育棟B棟4Fにある橋本研究室まで届けて下さい。(この提出をエントリーと呼びます。2回のエントリーさえすれば単位取得はほぼ確実です。もし何らかの理由でエントリーに失敗しても1回ならカバーする方法がありますが、2回とも失敗すると単位取得は絶望になります。但し、⑤だけはもし選抜されれば1回のエントリーで済みます。)

★1/19には2回のエントリーとも選抜されなかったチームを主対象として、自分たちが設定した現代社会に関する自由テーマで発表するチャンスもあります。(12/15に追加説明予定)

●発表チームの選抜

エントリーされたものの中から発表する2チームを橋本が選抜し、原則としてエントリー締切の翌日に橋本研究室前に掲示するとともに、発表チームのリーダーに連絡します。連絡を受けたチームは発表に備えて下さい。(発表自体より質疑に対する応答準備が重要になります。発表は1チーム10分以内ですが、前に立っているいろいろな質問に回答する時間が40~50分あります。)

※発表に選ばれるかどうかで成績が大きく違ってきます。折角苦労して作っても発表できないこともあるのが橋本メソッドの特長の1つです。(惜しい作品は佳作としてレジュメ配布のみ行うことがあります。)

※エントリー予定が1チームしかない場合は内容の出来・不出来に関係なく無競争当選となります。

※エントリー予定が2チームしかない場合もほぼ無競争当選ですが、内容が酷似している場合は1チームに絞ることがあります。

※上記の2チームを1チームに絞った場合を除き、原則として落選チームには連絡はしません。選抜結果が気になるチームは橋本研究室前の掲示で確認して下さい。また、授業当日にはなぜ落選したのかという理由書を配布します。

※2チームには当日、勝敗も付きます。勝つか負けるかでも成績が違ってきますので発表に選ばれたら頑張ってください。

富大シャトルカード 25



2020

27

年度 (前期・後期・集中)

月/日	あなたからの伝言板	教員から…
4/21	<p>1 日本人の大学進学率が50%前後だ」と聞いて、それならば単純に考えると、残りの約50%は社会に出ていると考える。その約50%は働いて、税金を納めているのだとすると、国民の義務である「勤労」と「納税」を果たしているのに「選挙権」が与えられていないのは、やはりおかしいかと思う。授業で色々な意見が聞けるのはとてもいい。</p>	<p>実際には納税義務が20歳以上というルールとは関係なく消費税などは幼児でも負担していますが、所得税、社会保険負担などは、働かなくても20歳未満は非課税です。</p>
4/28	<p>2 そこで逆に働いていない人も含め18歳以上全体を課税対象者に新たに加えるというのが財政赤字に苦しむ日本政府の真の狙いなのではないかと思われま。大学1~2年の多くもアルバイトをしていますから大学生からも徴収できます。「選挙権も18歳にしたのだから…」というのは格好の口実になります。既に18歳以上から17歳以下まで、選挙権を口実に、課税対象や国民年金の負担する年齢をひき下ろすことが真の狙いではないかと思われま。おどろきも怖ろしくてもおもしろいと思われま。選挙権に限らず政策決定・変更には「巧みな」戦略が存在します。それを採る「眼力」を高め下さい。</p>	<p>選挙権に限らず政策決定・変更には「巧みな」戦略が存在します。それを採る「眼力」を高め下さい。</p>
5/12	<p>3 先に「選挙権を18歳以上に」という国策を実行して、真の狙いに反対論をおさえるという意図で、このようにおぼろげに言われていたことが、急に納税し始めた。今日の発表での景気の定義は複数存在する。個々の大企業と国民の景気感にずれがある、ということ。少し考えれば分かるようなことなのに、言われて初めて気づくことに先に気づけるかどうかが重要ですね。また気づいたらそれを口にしてみる積極性も必要です。現代日本には、言われないと気づきにくい社会的諸矛盾が多数存在しますが、多くの方はそこに気づいていません。</p>	<p>意図での景気の定義は複数存在する。</p>
5/12	<p>4 A. 原発が停止したのにもかかわらず、深刻な電力不足に悩んでいる。要因に、世間の節電意識の向上が挙げられるのではないかと。3・11以来節電を呼びかける声が多くなり、使用電力を抑えるエコ家電も多く発売されるようになった。少しづつ節電でも多くの家庭が行っているから、電力不足を回避できているのではないだろうか。あと、Bの発言の「宇宙で発電」というのも現在実用化に向けて開発されていると聞いたことがあり、兵庫県のその実験施設が作られたと。宇宙での発電の一番のネックは、発電した分を地上に届けるまでの放電ロスが大きいことです。</p>	<p>政府の節電キャンペーンに応じた成果はあるでしょうが、それでも現在の日本は世界一の電力浪費国です。無数とも言える自販機、日本が始めた24時間営業というビジネスモデル、どこにでもあるコンビニ、その実験施設、場所によっては歩道橋に設置あるエスカレーター etc 外国人観光客が驚くことばかりですが、日本人の大半には浪費の自覚がありません。東日本大震災では震災後2度、3度の冬越しを仮設住宅で過ごした経験がある人も多くいます。厳しい暑工、寒工のなかで、避難生活を送ることにした人も多くいます。住宅でしている人も多くいることも分かっておいて下さい。それでも1.17よりはマシな期間の地震発生は確かに不幸中の幸いだったかも知れませんが、発表お疲れさまでした。盛り込んでいないことを質問するのはエチケット違反などと考える人もいますが、悪かなる考えです。そこからどう発展させるかは発表者、質問者双方に学びの深さをもちます。</p>
5/19	<p>5 難しいことですね。私自身神戸の出身なので、北・中高で地震についての授業、講習などを比較的多く受けたのですが、阪神淡路大震災を経験して、いたため、あまり危機意識が強いとは言えないと思われま。東日本大震災では、地震発生が3月であつたのが不幸中の幸いと言われているのと同じことかありま。厳しい暑工、寒工のなかで、避難生活を送ることにした人も多くいます。住宅でしている人も多くいることも分かっておいて下さい。それでも1.17よりはマシな期間の地震発生は確かに不幸中の幸いだったかも知れませんが、発表お疲れさまでした。盛り込んでいないことを質問するのはエチケット違反などと考える人もいますが、悪かなる考えです。そこからどう発展させるかは発表者、質問者双方に学びの深さをもちます。</p>	<p>東日本大震災では震災後2度、3度の冬越しを仮設住宅で過ごした経験がある人も多くいます。住宅でしている人も多くいることも分かっておいて下さい。それでも1.17よりはマシな期間の地震発生は確かに不幸中の幸いだったかも知れませんが、発表お疲れさまでした。盛り込んでいないことを質問するのはエチケット違反などと考える人もいますが、悪かなる考えです。そこからどう発展させるかは発表者、質問者双方に学びの深さをもちます。</p>
5/26	<p>6 これをどうするか。下規模の地震が30年ごとに、2.5の倍の被害者にかかる景気警報が鳴る。このことも考えた対策が必要になるのではないだろうか。発表も質疑応答も大変でした。特に、レジュメにはまったく書かれていない内容での質問が一番多かったです。それでも、今回の発表と質疑応答はとても良い経験になりました。全く想定していなかった視点からの質問等もあり。そういう見方、考え方もあるのだと気づかされました。</p>	<p>1.17よりはマシな期間の地震発生は確かに不幸中の幸いだったかも知れませんが、発表お疲れさまでした。盛り込んでいないことを質問するのはエチケット違反などと考える人もいますが、悪かなる考えです。そこからどう発展させるかは発表者、質問者双方に学びの深さをもちます。</p>
5/26	<p>7 この点は現代人の盲点です。五輪が商業化した一大イベントに変わったことで多くのビッグビジネスチャンスが生まれ、同時にそれは大きなリスクともなっています。五輪をきっかけにして急成長する企業もあれば、倒産してしまう企業もあります。単なる「体育大会」ではありません。多くの利害をめぐる思惑が交錯します。</p>	<p>この点は現代人の盲点です。五輪が商業化した一大イベントに変わったことで多くのビッグビジネスチャンスが生まれ、同時にそれは大きなリスクともなっています。五輪をきっかけにして急成長する企業もあれば、倒産してしまう企業もあります。単なる「体育大会」ではありません。多くの利害をめぐる思惑が交錯します。</p>

★
加減マ-7

★

グループ分け

当日は、多くの刺激を受けられるよう学生と教員が混在するグループ構成とするとともに、議論のしやすさを考えてできるだけ学生と教員が同学部あるいは理系・文系で固まるように配慮し、下記のような6つのグループを作りました。但し、参加者の偏りから徹底はしていません。

●印は各グループのファシリテーターで、原則として、全学FD・教育評価専門会議の委員を務める教員に進行マニュアルを渡して協力をお願いしました。

各グループとも活発な討議を楽しめたようです。

A (E21教室)

人文	教授
●人文	准教授
人文	1年
人発	教授
人発	准教授
人発	講師
人発	4年

B (E22教室)

経済	教授
●教セ	教授
理	講師
理	2年
理	2年
理	1年
共セ	准教授

C (E23教室)

経済	教授
●経済	教授
理	准教授
理	1年
理	1年
理	1年
共セ	教授
共セ	准教授

D (E31教室)

●理	教授
理	准教授
理	1年
理	1年
薬	助教
薬	助教
環セ	准教授

E (E32教室)

人発	2年
人発	2年
工	教授
工	1年
●医	教授
医	助教
医	助教
情セ	教授

F (E33教室)

理	1年
●工	教授
工	准教授
工	講師
工	1年
医	教授
医	教授
医	助教

人発：人間発達科学部 教セ：教育推進センター 情セ：総合情報基盤センター
環セ：環境安全推進センター 共セ：共通教育センター

参考：グループ討議事前申込者数（及び全事前申込者数）

教員 29名（45名）

職員 0名（8名）

学生 15名（29名）

計 44名（82名）



ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- (○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。
 グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。
 図式的なものでもOKです。

「全ての大学の授業がアクティブラーニングだとどうなのか」

① 難
 ・基礎的知識の伝達の授業も必要
 ・受け身スタイルが合っている学生もいる
 ・実験系では難しい

② 良
 ・じっと座っているよりもやりやすい
 ・チームで話し合うので発言しやすい

③ 難
 ・2コマ連続授業にし、1コマ目は学生主体の授業
 ・後半は基礎知識の伝達など補足してはどうか

④ 良
 ・実験系でも5分くらい考え方、応用の仕方を話し合うことはできるかも
 ・チャトルカード、moodleを活用する

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。

すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。



ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- () アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。
グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。
図式的なものでもOKです。

テーマの自由度をどう設定するのかなどについて議論された。
ある程度、テーマを限定する方が、学生は調べやすい。
しかし、テーマを広く設定すると、教員が気付かなかったことを学生が提示してくることもある。
さらに、学生の議論を発展させるためには、教員のファシリテーション力が重要になってくる。そのため、教員は莫大な知識が必要になるだろう。

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。

すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- (○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。図式的なものでもOKです。

1. 「メリット」として主張したい事

- (1) 学生 (理学部)
 - ・発言が求められるので、真剣に聞き、「発言力」がつく。
 - ・他の聞かなくての授業(教授の主観?)より、知的興味が増える。
 - ・コミュニケーション能力がアップして行く。
- (2) 教員
 - ・最近の社会の動向を伝え易い

2. 「デメリット」

- (1) 学生 議論がしり切れての終了場合あり、人数数授業は?
- (2) 教員 履習者の案を途中で消されていく。評価基準が不明確に

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。



ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- (○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。図式的なものでもOKです。

も、もっと取り~~入~~入れることは、

アクティブラーニング ~~は~~ ^も必要

↓

どのよりに今の講義に活かすのか 問題

→ そもそもまずは、覚えることが
(ライセンスの取得) が目的

解決案 ↓

① 別枠でカリキュラムに組み込む

② 何回かの講義のうち、数回に組み込む

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。

すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけではなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- (○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。図式的なものでもOKです。

教養科目にはこのタイプの講義は合うと思うが、専門的な科目に適用するにはどうすれば良いのか？
ディスカッションしたが答えは出なかった。
教材を教員が考えられればできるかもしれないが。
また、授業としてのエンドポイントをどう設定すべきなのかも結論が出なかった。

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。

すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

() 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等

() アクティブラーニングに関するグループとしての主張

() その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で資料としてそのまま採録する可能性があります。グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。図式的なものでもOKです。

- コト
・競争要素を多く導入している。
- ・先生がフットワークと交通整理・誘導を行う。
- ・あらかじめ、互いに質問内容等について相談時間を設ける
- ・タイム等で、きっちりとおとたざせおにむ。
←好む学生と2階はせおてお活発に話せる。
- 利点
・やはり、学生自身で蓄積感は大い
- ・人に説明する必要があるため、論理的思考力が身につく。
- ・グループ等の指導もしにくい
- ・グループを作る習慣が出来るか? 背景が異なる人が集まるのが良い
- 欠点
・やはり、アクティブラーニングに向かおて受業があるおは?
特に、理工系? ←出来ないおはないおは注意が必要。

※このワークシートはグループ討議終了後速やかにE棟玄関前に待機中の担当者に提出して下さい。

すぐに全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。



↑ Aグループ討議



↑ Bグループ討議



↑ Cグループ討議



↑ Dグループ討議



↑ Eグループ討議



↑ Fグループ討議

【全体討議の司会をして】

アクティブラーニングについては、文部科学省の大学教育改革への取り組みの中でひときわ耳にするようになり、いずれ実績が求められるようになってきたため、昨年からは理学部でも FD においてアクティブラーニング（AL）とは何なのかを学ぶところから取り組みを進めました。しかしながら、私自身の AL の理解は平均的なものでした。昨年の段階では、取り入れる意義をよく飲み込めなかったことと、挙げられる実例と、我々が行っている専門の授業の間にギャップがあり、何となく難しそうというのが、私も含めおおかたの正直な印象ではなかったかと思えます。

今年度に入り、橋本先生に理学部 FD への御協力をお願いし、9月に開かれた平成27年度大学コンソーシアム富山 FD&SD 研修会では、たまたま橋本先生が企画され AL を取り上げられたということもあって、理学部にとっては一連の流れが生じました。大学コンソーシアム富山 FD&SD 研修会では、文部科学省専門官の辻邦章氏により、日本の学生の勉強時間の少なさや教授法と学修定着率の問題に触れながら AL を取り入れる理由について、そして関西大学教授の三浦真琴先生により、AL とは何かについて要点が押さえられました。一方で、理学部では教務委員会教育改善部会のメンバーを中心に、橋本先生と UD Mates の学生に参加していただき膝をつき合わせた勉強会で、我々が何を分かっていないのか、どこにギャップがあると感じているのかについても議論し、理学部全体の FD ではそれを踏まえた形で橋本先生に講演を行っていただきました。これらのおかげで、理学部でも AL の意味・意義が少しずつ浸透してきたように思います。



この全学 FD で私が討議のファシリテーターを務めたグループは、薬学・工学・理学の教員・学生からなる全員理系でした。教員の高校・大学時代は、発言をするような授業を経験したことがなく、どうしてよいかわからないという本音も出ましたが、AL の目的とする、学生のやる気を起こさせて主体的に学ぶ姿勢を引き出す、ことには全員一致で賛同でした。理系の授業の中でも、特にハードルが高いライセンス取得を目的とするような授業では厳しいだろうという意見は出ましたが、特別な科目で実施することとか、講義の中でもテーマを選んで部分的に取り入れることは可能かもしれないという意見もあり、皆さん、何らかのヒントを得ることができたと思います。

（理工学研究部（理学）教授 唐原一郎）

【参加者感想】

2015年11月4日に開催された全学FD2015に参加させていただきました。この度の全学FDは、公開授業を通してアクティブ・ラーニングの在り方を肌で感じ、グループ討議、全体討議を通じて、今後の大学教育にアクティブ・ラーニングをどのように活用し得るかを考えてみる機会を与えていただきました。アクティブ・ラーニングは、教員の講義を聴く従来の授業形式ではなく、与えられた課題から、学生自らが学修を進める授業形態ですから、実際にやってみて考える、意見を出し合って考える、分かりやすく情報をまとめ直すなど、いろいろな活動を介してより深く分かるようになり、よりうまくできるようになることを目指すこととなり、思考を活性化する学修形態と言えます。

医学部では、以前より、問題解決を進める過程で知識を修得するとともに自らの学ぶ力を養う目的で、少人数でチュートリアル室に分かれて問題基盤型学修を行うPBL(Problem-Based Learning)をカリキュラムに取り入れてきましたが、学修課題の蓄積はできているものの、チューターを担うための多数の教員数の確保に苦慮しており、またチューターとして適切なあるいはきめ細やかな対応をしているかについては限界があり、形骸化していつているのではないかという現状に、PBLチュートリアル教育の新たな在り方が求められています。

今回の全学FDでは、橋本先生に、一人の教員で、数グループに対応するアクティブ・ラーニングの一例を示していただきました。これは、授業の冒頭にテーマを与えて、大教室で少人数の島を作らせてグループ学修を行い、学修成果を全体討議で発表させて、学生間で相互評価させるという、グループ間でも情報を共有するチーム基盤型学修のTBL(Team-Based Learning)に基づいたものだと思われました。

TBLもPBL同様、問題解決を進める過程で知識を修得するとともに自らの学ぶ力を養えます。PBLは、学生の自主的な学修意欲を引き出すことにおいては画期的な学修方法ですが、日本の10倍以上の教員がいるアメリカの医学校で発展してきたものですから、それをそのまま日本の医学部に導入するよりは、PBLチュートリアルを改善したTBLによって満足のいく少人数学修が可能となるかもしれません。医療・医学の分野では、学ぶべき知識が膨大となり進化のスピードも加速しています。医師には、新しい知識を能動的に吸収し、自ら問題点を発見し、解決する能力とその習慣を早くから身につける能力が必要です。アクティブ・ラーニングはその基盤を確立する、効果的な学修形態を教室に持ち込んだものと言えます。今後、アクティブ・ラーニングを本学でその取り組みを進めていく上では、その失敗事例も報告されているようですので、全学FDを通して、問題点やその対処の仕方なども紹介してもらえたらと思います。

(医学薬学研究部(医学)教授 服部裕一)

本日は、全学FD2015に御参加いただき、ありがとうございました。今後の企画の参考にさせていただくため、アンケートに御協力をお願いします。(当てはまる番号に○を付けてください。)

問1 今回の企画の各パート及び全体について評価をしてください。

	良 く な か つ た	あ ま り 良 く な か つ た	ど ち ら と も い え な い	お お む ね 良 か つ た	良 か つ た
1) 公開授業	1	2	3	4	5
2) グループ討議	1	2	3	4	5
3) 全体討議	1	2	3	4	5
4) 企画全体として	1	2	3	4	5

問2 (1) グループ討議では教員・職員・学生混成のグループとしましたが、今後どうするべきであると思いますか。

- 1) このままでよい 2) 教員・職員・学生別にするべきである
3) その他 ()

(2) (1) の回答について、理由・意見があれば記入してください。

問3 開催時期について、どう思いますか。

- 1) このままでよい 2) 変えたほうがよい (時期:)

問4 今後、より多くの教員・職員・学生に全学FD研修に参加していただくために、良い考えがあれば記入してください。

御協力ありがとうございました。最後にあなたの立場と御所属をお教えてください。

- 1) 教員 2) 職員 3) 学生

- 1) 人文 2) 人間発達 3) 経済 4) 理 5) 工 6) 医 7) 薬 8) 芸術文化
9) その他 ()

全学FD2015 参加者アンケート集計

公開授業		選択番号 (記入数字)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	回答 数計
番号	意味		公開授業	3	4	9	23	21	/	/	/	/	/	/	
1	良くなかった	グループ討議	5%	7%	15%	38%	35%	/	/	/	/	/	/	/	-
2	あまり良くなかった		グループ討議	1	1	2	20	18	/	/	/	/	/	/	42
3	どちらともいえない	全体討議	2%	2%	5%	48%	43%	/	/	/	/	/	/	/	-
4	おおむね良かった		全体討議	0	2	3	18	17	/	/	/	/	/	/	40
5	良かった	企画全体	0%	5%	8%	45%	43%	/	/	/	/	/	/	/	-
			企画全体	1	0	4	17	20	/	/	/	/	/	/	42
		グループ編成	2%	0%	10%	40%	48%	/	/	/	/	/	/	/	-
			グループ編成	45	0	1	/	/	/	/	/	/	/	/	46
		開催時期	98%	0%	2%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-
			開催時期	52	7	/	/	/	/	/	/	/	/	/	59
		変更時期「月」	88%	12%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-
			変更時期「月」	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
		変更時期「週」	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	-	
			変更時期「週」	0	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	0
		変更時期「曜」	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	-
			変更時期「曜」	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	/	0
		立場	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	-
			立場	41	7	12	/	/	/	/	/	/	/	/	60
		所属	68%	12%	20%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-
			所属	4	4	6	12	8	8	6	0	8	/	/	56
			7%	7%	11%	21%	14%	14%	11%	0%	14%	/	/	-	

番号	意味
1	良くなかった
2	あまり良くなかった
3	どちらともいえない
4	おおむね良かった
5	良かった

番号	意味
1	このままでよい
2	教員・職員・学生別にするべきである
3	その他

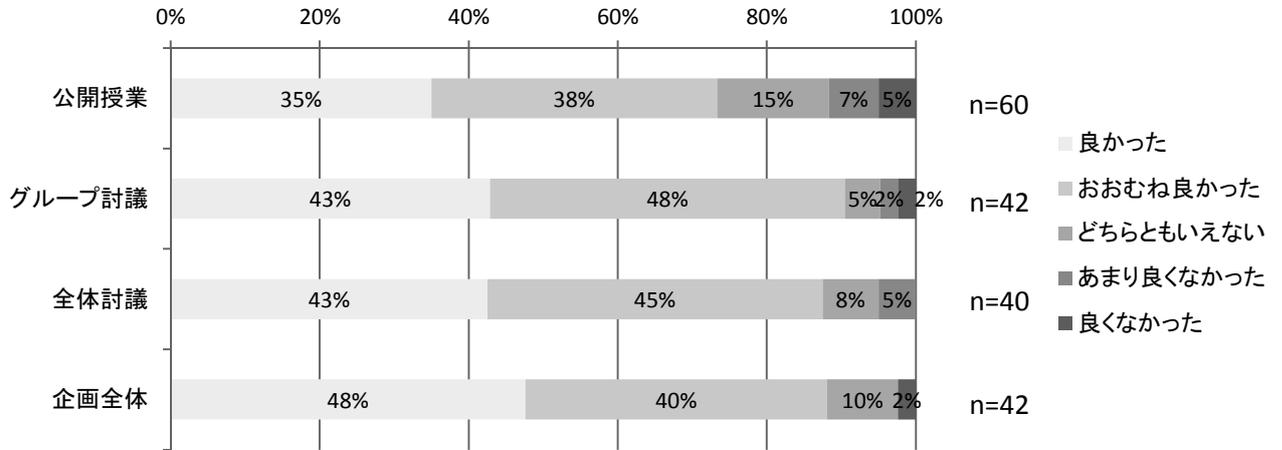
番号	意味
1	このままでよい
2	変えたほうがよい

番号	意味
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土

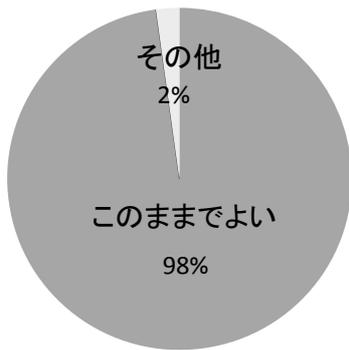
番号	意味
1	教員
2	職員
3	学生

番号	意味
1	人文
2	人間発達
3	経済
4	理
5	工
6	医
7	薬
8	芸術文化
9	その他

全学FD2015 参加者アンケート集計

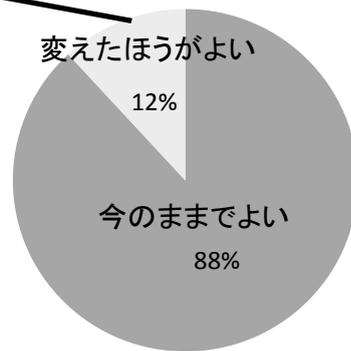


グループ編成 n=46

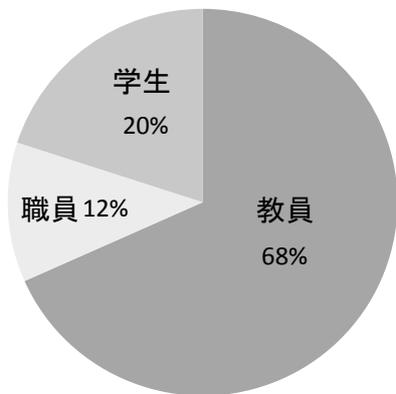


代わりの時期
 ・前期後半
 ・7月
 ・9月(夏休み)
 ・10月

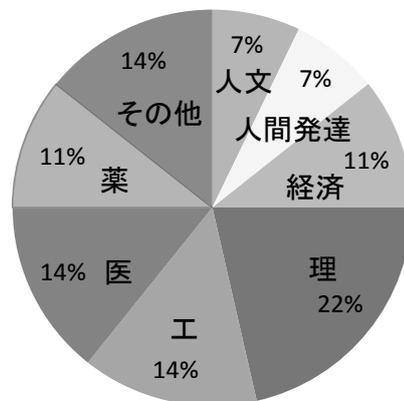
開催時期 n=59



立場 n=60



所属 n=56



全学FD2015 参加者アンケート記述回答

◎問2(2)「(1)『グループ討議は今回教員・職員・学生が混成のグループとしましたが、今後どうするべきだと思いますか。』の回答について、理由・意見があれば記入してください。」の回答

○(1)で「1)このままでよい」と回答した人の回答

- ・多視点からの指摘が良いから。
- ・学生の意見が貴重
- ・学生の意見が多く聞けた。
- ・学生がどう思うかはとても重要である。
- ・学生からの生の声が大変良かったため
- ・今回は講義の内容を理解している学生が、よく受け答えしてくれたので、理解が深まった。
- ・学生の生のリアクションが見られてよい。
- ・やはり、当事者の学生の意見等を聞きやすい。
- ・学生の生の意見が聞いて良かった。
- ・学生は事前に何をやるのかが把握できなくて当惑しました。
- ・アクティブラーニングに対する学生の意見が聞いて興味深かった。一般教養に求めているものが学生と教員で大きく異なることに驚いた。
- ・FDに学生混成は良かった。
- ・学生の意見を聞けることは、有意義であった。
- ・少人数の時の方が考えているのでそこでさまざまな視点からの意見を聞いた方が良かったから。
- ・職員の立ち場からの意見も聞いて、この授業に関して色々な視点から話し合うことができた。
- ・面白かったので。
- ・学生の意見が聞けることが良かった。
- ・教員の意見を聞くことができるいい機会。
- ・実際に授業に参加している学生から、本点を含めたさまざまな意思が分かる上、教員同士の話し合いも活発になるため。(左様思います)
- ・授業に参加している学生の意見は非常に参考になった。
- ・学生の意見も聞いて良かった。
- ・教員の人たちの意見などを聞いたりする機会が普段ないので楽しかったから。

(次ページに続く。)

- ・受講生の意見が聴ける点がメリット。ただ、討論の中で教員間で深めるテーマとなると、少し工夫が必要かと思う。うまく学生の教員の討論の中に取り込めるかどうかのポイントかと思われる。しかし今回うまく行きました。アクティブ Learning がよく理解できました。特に有名な方をお呼びするよりもこのようなケースもいいと思います。
- ・学生が積極的に発言しているのが見られてよかった。
- ・雰囲気はふだんと違うから

○ (1) で「(2) 教員・職員・学生別にすべきである」と回答した人：なし

○ (1) で「(3) その他」と回答した人の回答

- ・多少、専門課程の授業を受けた経験が欲しい。((1)「(3) その他」での括弧書き：学生はもう少し高学年で、最低 5 人は集めたい。)

◎問4「今後、より多くの教員・職員・学生に全学FD研修に参加していただくために、
良い考えがあれば記入してください。」の回答

- ・それぞれのテーマに興味を持つこと。
- ・授業アンケート評価の低い教員は必須にする。
- ・学生を入れたFDをすすめる。
- ・様々なFDがあるので、どこかでスケジュールを取りまとめて欲しい。(内容は部局に任せて良いが、互いに何をやっているかは相互理解すべきだろう)
- ・今日のような公開授業が大変勉強になる
- ・積み重ねで、一方、マンネリ化を防げば、段階的に参加者は増えていくと思う。
- ・前日、当日に各部でメールを流す。(今回、サイボウズでしか情報を見ることが出来ませんでした。)
- ・全教職員に1年当たり10～15時間の研修を義務づけて、Skill upした方が良い。企業はe-Learningを使っても実施している。
- ・授業時間をもう少し延ばしてもいいと思った。授業が終わるのが早く感じた。
- ・強制的に参加させる。(良い考えではないかもしれませんが…)
- ・グループ討議が、“橋本メソッドを知る”ことを目的に進められている感がありました。第一歩としては“良かった”と思うのですが、自分が担当している講義に落として考えるという点は、不十分を感じます。“知る”という本を読めばできることにとどまっては、橋本先生が講義を見せてグループトークをした意味が十分に活かないように思いました。
- ・今回、私が出席したのは、年一回FD研修は参加せよとの教授会でのアナウンスメントがあったためでもあります。そのようなアナウンスメントを頻繁に行われているのがいい。
- ・教育に携わっている人間として、今回の様な取り組みは少なからず関心がある。半強制のような形でも、一度見る機会を作ると良いと考える。
- ・グループ討論することで、私たち参加者も参画(発言)の仕方を学べたように思います。いい仕組みだと思います。グループワークに苦手、反対意識をもたれている方の参加の促進は難しいと思います。気軽に参加できる雰囲気も大切かもしれません。
- ・時期を選ぶ、他行事との重なり
- ・必須化しかないのではないのでしょうか。
- ・みなに興味を持つFDとすべき
- ・採用後〇〇年の教員(や職員)の参加を必須にする。
- ・会場を杉谷や高岡でも実施する。
- ・会議などと被ると出席できないので、2～3回のうちどれかに参加するという形にする。
- ・やはり、理系科目での公開講義例を見てみたい。そうすれば、また違った層の参加者が来るのではないか。

結びに代えて

全学FDは、毎年、各部局において展開されているFDとは一味違う内容で開催しています。具体的には、

1. 討議型FD（話を聞くだけではなくグループで話し合い、全体でも活発に議論する）
2. 全構成員型FD（FDを教員だけの問題としてではなく、大学全体で推進する）
3. 楽しむFD（あちこちで笑顔が見られ、生き生きした表情にあふれる内容とする）

の三つの特徴があり、参加者が大学構成員として教育に関する諸問題を共有し、疑問や考えを寄せ合い活発に話し合うことを通じて、本学教育の更なる発展を目指しているものです。

今年度は過去3年の基調講演を受ける形に代えて、実際の授業を参観した後、その受講生たちとアクティブラーニングの在り方等について、率直な意見交換をするという独特な内容で開催しました。アクティブラーニングの考え方については、各学部別のFD等でお聞きになっている方が少なくないと思われませんが、実際の授業と組み合わせ、受講生と議論するという形は本学が日本で初めて、いや世界に先駆けて実施する新しいタイプのFDです。

参加者からは概ね好評でしたので、来年度以降、可能なら、私以外の教員に公開授業を行ってもらうことも含め、この形をもう少し試してみたいと考えています。今年は時間の関係で公開授業だけの参加に留まられた方も、本報告書によって、当日の様子を若干なりとも感じ取っていただけましたら幸いです。

大学教育は教員だけでは、うまく機能しません。事務職員の方々には教職協働の観点から、また、学生は学生目線で、今、大きな質的転換を目指して変革の渦中にある大学教育をより良いものにするため、一緒に歩みを進めることが重要です。

今後とも、それぞれの立場から、本学の教育改善・発展に向け、総力が結集されやすい環境づくりを進めてまいりますので、今一層の御指導・御鞭撻を賜れば幸甚です。

教育推進センター 副センター長
橋 本 勝

[付記]

学生たちの学びに対する意識を高めるため、本イベントとは別に、約3週間後の11月28日（土）に、学生参画型FDイベント（＝第5回UD Talk）も開催しました。今年度は諸事情から小規模での開催となりましたが、本来の狙いどおり、学生・教員・職員・一般市民・他大学の教職員が、今回のテーマである学生目線から見た「成績評価」について活発に意見交流をしました。2016年度入学者から本格導入されるGPA制・CAP制とも密接に関連し、非常にタイムリーな話題でした。近年、文部科学省も大学評価・学位授与機構等も世界的な潮流として「学生参画」を強く意識し始めていますが、本学では、既に2011年度から学生参画型FDを本格化させており、今年度の全学FDの内容が象徴するように、従来型FDとの有機的連携を目指して更に活発化することに期待したいと思えます。

全学FD2015
講義型授業におけるアクティブラーニング
～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル体験～
報告書

発行／2016年3月

編集・発行／富山大学教育・学生支援機構教育推進センター
富山市五福3190番地